

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームともだちの家 ユニットⅡ	評価実施年月日	平成21年12月20日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	センター方式の5つの視点を元にスタッフ全員で独自の理念を作り、志している。		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	申し送り時に毎朝唱和し、申し送りに参加できなくとも、玄関に貼ってあるのも含め、意識するよう、実践に取り組もうとしている。	○	申し送り方法が変わり、現在は皆で唱和する機会がない為、今後話し合っていきたい。スタッフ会議、カンファレンス等でも話題に出し、意識する機会を増やしていけたらいいと思う。
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	ホーム便りを回覧板に入れて頂き、理念の他、日々の様子等の紹介を交えて近況報告をし理解してもらえる様努めている。	○	ホーム便りに毎回、理念が浸透する様な文章を載せているわけではない。日々のふれあいの中で、利用者との活動、会話等を自然な形で見て頂ける様に、挨拶を交わす様心掛けています。
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	利用者と共に回覧板を回したり、買い物に出かけ、顔を合わせれば挨拶を交わす様にして交流に努めている。	○	利用者の身体状況が低下しつつある中、決まった利用者だが、近隣の方と顔なじみとなっているケースもある。まずは出来る事から大切にしていきたい。
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	町内会の運動会、近隣施設の盆踊り、子供会とのクリスマス会等を通し、交流に努めている。		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	人材育成として、ホームヘルパーの実習受け入れしている。今年は介護福祉士の実習受け入れも行った。	○	ホームヘルパーの実習も回数を重ねる中、なかなかとならぬ様、実習内容や指導方法を考慮していきたい。介護福祉士の実習受け入れも今後機会があれば継続できると、良い刺激になるのではないだろうか。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフ全員で自己評価に取り組み、反省、結果報告し改善に取り組んでいる。全員で実施する意義を理解しているとは言い難い部分もあるが、それも踏まえ日々努力している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、一個人ではなく各団体やグループから、会議の都度異なる方に参加していただくようにしている。また、会議形式のみではなく、行事への参加や感想アンケートなどを取り入れたりしている。	○	活発な活動と言い切れるほどの中身に成長していないことは否めないが、継続は力なりなので、参加者のみならず利用者・スタッフと相談しながら取り組んでいきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	滝川市では、各グループホームの担当者を決めて対応してくれている。また、市内事業所のケアマネージャーの会議が定期的開催されており、市担当者も出席している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在1名該当者がいるが、市担当者や社会福祉協議会と相談した結果、今のところは各制度を活用せずとも、ホームでの対応が可能という結論になっている。	○	知識として知っておくべきだが、正直なところ、この他に学ぶべき課題が沢山あり、勉強会のテーマに取り上げるには至っていない。1名の該当者については、徐々に入退院の頻度が増えてきている。入院中の所用の代行も含め、今後、弁護士・司法書士等に相談する予定。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会に参加して学び、虐待防止に努めてはいるが、徹底とまではいっていない様に思う。	○	虐待行為を発見した場合は、本人に注意又は管理者等に報告すると共に、虐待防止研修に出席した場合、他スタッフに報告する様に努め、利用者により気持ちよく過ごして頂ける様心掛けていく。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や解約の業には、せかすことのないように十分に時間をとり説明している。書面については前もって写しを渡して目を通していただいてから、後日説明を加え質問に応じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	夜勤者へ言う、事務所へ言う、雑談の中から等、様々な自己表現に対応する他、意見が言えない利用者からは表情、態度等から意見を汲む努力をしている	○	何でも言える、言い易い雰囲気、環境作りに配慮していきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の来訪時に声をかけ状況を伝えている。また、2ヶ月に1度のともだちのいえ便りで写真を折り込み様子を伝えている。この他、毎月預かり金残高とレシート等を郵送し、受診や薬の残数なども手紙でお知らせしている。職員の異動や採用・退職については随時知らせてはいるが、目にとまる場所に顔写真を掲示している。新年度にあわせ年に1度抱負コメントを含み職員紹介をしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時には積極的にコミュニケーションを図り、意見、不満等言い易い雰囲気作りに努めている。苦情等あれば連絡ノートやカンファレンス等で反映させ前向きに受け止めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議の他、日々の雑談の中からも意見を汲み取る努力はしているが、不満や苦情は言い難い部分もあるので、把握しきれていない部分もある	○	スタッフが意見を言いやすい様に意見箱みたいなのがあるといいと思う。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日々のケアに柔軟に対応できる様な勤務調整を汲み、夜間にも対応できる様配慮している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの職員が対応する事の大切さを理解し、異動は最小限にしてダメージを防いでいるが、退職等で必要時は、バランスを考え、速やかに行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	立場、レベルに合わせての研修参加機会を設けており、なるべく多くの職員が受けられる様配慮されている。	○	少しずつだが、研修会後の報告の機会を設け、スタッフが考え、資料を用意したりし、トレーニングしている。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	「北海道認知症高齢者グループホーム協議会」「滝川地域介護サービス事業者連絡協議会」に加入し、情報を得たり、研修に参加し、交流する機会を持ち、サービス向上に努めている。	○	他事業所に見学等を行い、良い刺激を受けつつ、交流する機会が増えると良い。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩室、喫煙所、休憩時間はきちんと確保されており、管理者は職員のストレスに気づくと気を遣い対応してくれる事もある。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	健康診断、有給等は適切に実施され、向上心を持って働ける様、職能評価、資格取得の為の支援にも配慮されている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面談、ショートスティを利用し、意見を聴く様努めている。記録も作成し、皆で情報共有できるように努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面談も含め、家族が求めている事を理解し、事業所としてどのような対応が出来るか、事前に出出来る限り話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	すでに他のサービスを利用しており、居宅介護支援事業所の担当ケアマネージャーから紹介を受けるコトが多い。また、入院中に病院の地域連携室担当者から退院後の相談という形で紹介を受けることもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	何度でも足を運んでもらい”説得”ではなく”納得”して来てもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の想いや根本にある悲しみ、喜びを知る事にも努め、日々の暮らしの中で年長の知恵や生活力、を学ばせて頂いたり、他愛もない事で笑いあい、支えあう関係づくりに努めている。		共に支えあう関係、構築の努力を行っているが、ともすると喜怒哀楽という人間特有の感情の中で、怒哀をネガティブに捕らえがちになっているかもしれない部分もあるので、互いに楽しむ気持ち、感謝の気持ちを忘れずにいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時等を利用し、日々の利用者の様子を伝えたりし情報共有に努めている。家族とのズレも出てくる事もあるが、共に本人を支えていくという同じ想いが持てる様、試行錯誤を重ねながら、関係作りが出来る様努力している	○	本人と家族との関係性も歴史も様々であり、立ち入れない部分も正直ある。しかし、職員と家族との協力性を強められる様、少しずつでもアプローチしていき、利用者の支援に努めたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	フェースシートや来訪時の情報収集等により、本人と家族との関係理解に努めている。その上で、行事、受診、ホーム便り、面会等を活用し、日頃の様子を伝え、相談している。自室に写真を飾る等して話題の糸口となる様努め、ゆっくり自室で過ごして頂ける様にしている。	○	疎遠になっている家族関係もあるが、出来る限り両者の想いの橋渡しをしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	美容室、月命日のお寺さんの来訪、知人の面会等、生活習慣を継続できる様尊重している。	○	家族の協力も仰ぎながら、支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	リーダー格、ライバル関係、相談に乗る、誘い合う、顔なじみ等、いろいろな関係性を把握し、職員が調整役となり、利用者同士が支えあう関係が出来る様、日々見守り、工夫に努めている。	○	個々の個性を活かし、利用者同士の関係や力を上手く利用し、力を発揮できる様に配慮していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院時はお見舞いしたり、葬儀に参列したり、行事がある時は状況が許す限り参加してもらえる様心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、雑談や言葉や表情等から真意を汲み取る努力をしている。	○	1人一人の会話を大切に、利用者の想いを引き出せるよう支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用前の情報に加え、利用後の本人や家族の会話や日々の記録等から把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の様子を記録し、生活リズム、出来る事、出来ない事等を理解し、出来る事に着目し、本人の力量を最大限出せるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月1~2回ペースでカンファレンスを開催し、職員全員で意見交換をし、記録や本人、家族の意向に基づき介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に一度のペースで見直しを行っているが、利用者の状態が変化した際には検討し、新たに計画を作成している。	○	計画変更とはならずとも、手順や方法の変更等がある時は、申し送りや連絡ノートを活用し、連絡漏れがない様にしていきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録ファイルを用意し、身体的状況から出来事を記入し、どの職員もいつでも記入し、見られるようにして、見直しや実践、介護計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況により、受診、買い物等柔軟に対応している。外出、外泊、家族の宿泊の他、短期利用の受け入れも実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアで趣味の会から作品提供を受け、共有スペースに展示して頂き、雰囲気作りに生かしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理容サービス利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターが音頭を取って、市内の様々な種類の事業所のケアマネジャーの会議が2ヶ月に1度の頻度で開催されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医に診察してもらっている。原則として家族が通院付き添いをしているが、日常の様子が伝わりやすいように口頭またはメモで伝達をしている。家族の付き添いが難しい場合は職員の付き添いにて受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	砂川市立病院もの忘れ外来は予約をとるだけでも、かなりの日数を待たなければならない。近隣の協力医の紹介がなければ診察を受けることができないシステムでもあり、受診は現実的ではない。 滝川市立病院精神神経科にかかる方がほとんどである。担当医師は認知症が専門分野ではないと思われるが、話はいねいに聞いてくれていると思う。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に1度の訪問看護師の来訪があり健康相談にのってもらっている。電話での相談は24時間受け付けてもらっている。小さなことでも相談にのってもらえ安心感がある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合には、主に管理者が病院関係者に状態確認をしている。職員にはその様子を連絡ノートで知らせている。また、可能な場合には職員も顔を出すようにしている。 必要な方へは家族に代わり身の回りの物を届けている。症状にもよるが、近頃はこちらから望まなくとも早期退院のケースがほとんどである。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化に関する指針を示し、家族に同意していただいている。 イザの時が、急なのか少しずつの変化なのか誰にもわからないが、ヒトには必ず終わりの時が訪れることを、職員各自自覚していきたい。 センター方式シートC-1-2【私のターミナルや死後についての願いや要望は・・・】の欄も空欄や「死にたくない」といった内容がよくあり、利用者自身もそばにいる職員自身も、踏み込んで考え及ばないのも事実である。	○	「ギリギリまでここにいて最期は病院で」という言葉を家族からはよく聞く。しかし、家族間の中で気持ちは揺れ動くと思像する。 ピンピンコロリとなかなかいかないことは、誰もがうなずけることなので、問題提起の方法を探っていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	検討や準備はおこなわれていない。グループホーム単独での運営なことや、多くの利用者が公立病院にかかっていることもあり、もしもグループホーム内で終末期を迎えることの希望があれば、チーム編成はかなり難しいと考えられる。 また、北海道の地域性からか病院で晩年を過ごすことも珍しいケースではない。	○	現時点では「できないこと」の方が圧倒的に多いように思う。ここがはじめての介護職経験という職員が90%以上を占める現実もあり、最期の時に近づきつつあるひとを間近で見たことすらない職員もいる。 心構え・技能・行動力を身につけるにはどうしたらよいものか、途方にくれるのが正直な心境でないだろうか。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	この一年間は入院の他は例がない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	個人情報の記録物等のファイルにはフルネームを記入せず、伏字にしたりし慎重な取り扱いをしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねない様、言葉や対応に配慮している。	○	配慮不足の場面も見られる為、全ての職員の意識の向上に努める。
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	本人の希望やペースに沿って声掛けをし、意思表示が難しい方には選択肢を出したり、表情や雰囲気、状況等から汲み取る様にし、希望に添える様努力している。		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はせず、1人1人の気分、体調、希望等に合わせ、柔軟な対応している。	○	職員が場面でリードしていく事もあるが、利用者の希望や想いに配慮できているか、常に考えながら支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	朝の着替えは基本的には本人の意向で決定しているが、支援が必要な方には、その人らしさが窺える様配慮して支援している。汚れや乱れに気付いたら都度対応している。入浴後には個人に合わせ髪を巻いたり、クルクルドライヤー使用したりもしている。	○	支援が必要な方の服装ばかりに目がいきがちだが、大方自分で出来る方の細かい服装の乱れやおしゃれにも気を配り、スタッフの常識の押し付けとならぬ様、個性を大切にしていきたい。
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	事前に好みの物を聞き取り、メニューに取り入れている。盛り付け、片付け等は職員と利用者で行う。職員と利用者が同じテーブルについて一緒に食事を摂り、楽しめる様に心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みを把握し、献立に取り入れたり、時にはおやつで提供したりしている。嗜好の物は各自、部屋に置き、自由に飲食して頂いたり、たばこ希望者には他利用者の迷惑とならぬ様に配慮している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつの使用は最小限に留め、排泄チェックシートを活用しながら、声掛け、誘導等を行い、なるべくトイレで排泄でき、気持ちよく過ごせる様配慮している。	○	慣れから、皆に聞こえる声での声掛けしてしまったりも見受けられるので、全職員で基本的な事から見直しし、意識改革していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	3日に1度は入浴できる様配慮している。夜間入浴は実施していないので、完全に希望は添えない事あるが、午前、午後の時間帯で体調、気分等を見てタイミング良く声掛けし、柔軟な対応ができる様心掛けています。	○	その方のパターンやおおよその要望を掴み、なるべく希望に添う様にしている。現在、就寝前の入浴には対応できていないので、今後の検討材料である。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動の促しに努め、夜間眠れる様に配慮している。睡眠時間を把握し、日中の眠気が強い場合は夜間の睡眠に影響が出ない様に休んで頂いたり、夜眠れない傾向にある利用者には、個々に合わせて薬の処方や、話し相手になったりしている。一人一人の体調や希望に合わせて、日中の休息や早目の就寝等対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の出来る事を見極め、得意分野で力を活かせる様な仕事を頼み、感謝の気持ちを述べる様心掛けています。百人一首やカルタ、オセロ、体操等の皆で楽しめる事へも支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談し、本人の力量に応じて事務所預かりや小額を手元に置いておく等の対応している。お金の管理が難しくなっている利用者には、買い物に誘ったりし、支払い時にお金を手渡し、お会計して頂いたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	夏季はドライブ、近くの公園への散歩、花見、外食等、可能な範囲で希望に添った対応に努めている。冬季はインフルエンザの流行もあり、制約を受けてしまう事もある。	○	寒冷地にて、冬場の外出は控えがちになるが、状態を見極め、冬でも外出できそうな方には積極的に誘っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行きたいと希望のある利用者は家族と相談しながら、計画を立て取り組んでいる。その他は皆で温泉、外食等の機会を作っている。	○	可能な範囲でそのような機会を持てると良い。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を設置し、自由に使用出来る様にしている。必要時は支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	都合の良い時間に面会に来て頂き、挨拶、笑顔を心がけ、ゆっくり過ごして頂ける様にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会、研修会、スタッフ会議等で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	スピーチロックとなっている可能性もあるので、今後はスピーチロックについても勉強していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけずに、玄関にセンサーを設置し、見守りの中、自由な暮らしの支援に努めている。年に数回、センサーの音を聞き逃し、1人での外出があったが、早めの気づきで大事には至らずにいる。	○	センサーの音を聞き逃さない様に努力すると共に、外出したい気持ちにさりげなく寄り添っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は利用者と同じ空間に居る様にし、自室にこもりやすい利用者へはお茶等に誘う等してさりげなく所在把握に努めている。夜間は3時間おきの巡回の他、物音が察知でき、すぐに対応できる様な居場所を工夫している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬は常に鍵を掛けた場所に保管し、洗剤、包丁等の危険な物は夜間のみ鍵をかけ、管理している。注意が必要な物には1人一人に応じて分けて工夫している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	その都度ヒアリハット、事故報告書を作成し、ケアカンファレンスで事故原因や今後の予防策を具体的に話し合い、職員の共有意識を図ると共に、家族への説明、報告を行っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し、年一回は全職員が救急救命の講習を受けている。AEDも設置している。	○	AEDの定期的検査も含め、AEDになじんでいける様にしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	夜間、日中等、数回に分けて場面設定も替えて避難訓練を実施している。その他、災害に備えての物品準備も行った。連絡網のテストも実施している。	○	災害時用の物品を準備したので、今後の避難訓練等に活用していき、物品がある事をきちんと把握できる様にしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	行動に伴うリスク説明をしている。必要時は家族と話し合い、対応策も家族の希望を聞いたりして、リスクマネジメントに繋げている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定期的にバイタルチェックを行い、変化を見逃さない様につけている。記録し、情報共有に努め、早期発見に努め、変化に気付いた時には、訪問看護ステーションに相談したり、早めの受診を心がけている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局からの服薬内容シートは個別にファイルし、いつでも見られる様になっている。服薬時には手渡し、チェックシートを用いて確認している。	○	薬の用法、副作用等についての理解は職員間で個人差があるのは否めないで、1人一人の薬の知識を深めていきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一日の水分量に気を配り、食物繊維の多い食材を取り入れる様心がけている。毎日午後からテレビ体操を取り入れ、体を動かす促しもしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口の中を触れられる利用者の気持ちに配慮しつつ、力量、習慣に応じて毎食後の歯磨き、義歯の手入れの支援をしている。どうしても困難な利用者もいる。	○	困難な利用者には出来ないという固定概念を持たず、毎日出来なくても、出来る時を見つけて支援していく姿勢を持っていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事にムラのある方は記録し、水分量も記録表活用し、過不足ない様対応している。その方の咀嚼、嚥下状態に合わせ、刻みや粥等個別対応している。毎月体重測定を行い、目安にしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	季節性インフルエンザ予防接種は利用者、職員全員実施している。毎日の手洗い、うがいを徹底し、ペーパータオル使用や、次亜塩素酸ナトリウム希釈液による手指の触れる箇所の消毒も実施し、感染症対策している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、フキン、スポンジ等、消毒し、衛生管理に努めている。食材は新鮮なうちに使い切る様心がけ、期限切れの場合は直ちに処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏場は玄関先に季節の花やベンチを設置し、明るい雰囲気となる様に努めている。冬季は除雪をし、砂を撒いたりして安全に歩行できる様気を配っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	極端な変化は付けず、自然な感じで季節感を取り入れられる様、壁の飾りや、五感を刺激できる様に洗い物の音や音楽、におい等を工夫している。居間が自分の居場所となっている方もいれば、時々音を不快に思う方もいるので、場面によって居場所の工夫が必要かと思われる時もある。	○	その時々によって、不快とならぬ様観察し、察知して早めに対応できる様心掛けていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下や居間の端等にソファやベンチを設け、少人数や1人での居場所となる様、場所を確保している。喫煙所でゆっくり過ごしたり、自室に招き語らう姿も見られる。活動に合わせてソファやテーブルを移動させたり工夫している。	○	職員自身も環境の一部という事を忘れない様にしていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	安全面を考えつつ、それぞれの好みや使い慣れた物を活用し、居心地良くなる様配慮。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレは換気扇と消臭剤を活用し、居室、居間は掃除時に換気する様に気をつけている。温湿度計を設置し、確認できる様にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーで車椅子生活可能。至る所に手摺りを設け、自立した生活を意識しつつ、安全面に配慮している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各部屋が分かる様、のれんや名前を掲げたり、トイレを分かり易く明記したり工夫している。その都度何が原因で混乱しているのか把握し、柔軟な対応を心掛けている。	
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑スペースを確保し、日常的に楽しみながら活動できる様な環境作りしている。建物周囲にはベンチ、洗濯物干しスペースやカーポートを設置し、様々な活動で活用している。	

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者から見て、いろいろな立場から、労わり合う気持ちを持てる様、利用者職員とが笑顔で明るく一日を送れる様支援していきたいです。